

令和6年度 瑞穂野中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1)基本目標

人間尊重の精神を基盤に、豊かな心と個性をもち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる人間を育成する。

(2)具体目標（具体的な生徒像）

- 心身ともに健康で、気力あふれる生徒（強く）
- 自ら学び、創造性に富む生徒（賢く）
- 思いやりがあり、心豊かな生徒（明るく）
- 地域や世界に関心を持ち、未来を拓く生徒（拓く）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人権や生命尊重を基盤に知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動の実施と学校目標の「強く・賢く・明るく・拓く」の各姿を諸活動に位置付けた特色ある学校づくりを推進する。

生徒は、学習や生活、行事や部活動等に目的や目標をもって取り組む中で、自己を振り返りながら、将来の夢や目標に向かって粘り強くたくましく生きるために必要な資質・能力を身に付ける。教職員は、自己に与えられた使命を自覚し、自己研鑽に励み、生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

スローガン

(1) 夢や目標の実現に向けて、安心して学ぶことのできる居場所のある学校づくり（強く）

- ・心身ともに健康で、自分のよさを発揮し、誰もが安心して学べる活力ある学校。
- ・教職員が協力して業務に取り組み、よりよい教育環境に配慮した安全で快適な学校。

(2) 生涯学び続けることのできる資質・能力を身に付けられる学校づくり（賢く）

- ・指導と評価の一体化を図る多面的・多角的な業務の明確化と効率化の推進。
- ・情報を活用する力と課題を解決する力の育成に向け、自分で考え判断する場の設定。

(3) 自信や自己肯定感を高め、思いやりがあり豊かな心を育む学校づくり。（明るく）

- ・一人一人を大切にし、多様な生徒の状況の理解に基づいた適切な支援と指導。
- ・豊かな体験や人と関わり合いを通して、優しさや思いやりにあふれる生徒の育成。

(4) 地域の良さを知り、自分の良さを生かして未来につながる持続可能な学校づくり。（拓く）

- ・宇都宮学、キャリア教育、環境教育、国際理解教育、主権者教育、安全教育等の充実。
- ・地域人材や物的資源を有効に活用し、地域の未来を考え地域とともに歩む学校の推進。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で、生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育—
—言語能力を身に付け、他者と関わり合いながら、たくましく成長する児童・生徒の育成—

◎最重点目標：学習基盤となる態度や学習習慣の育成と基礎的な言語能力の向上

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領の示すところに従い、本校教育目標の具現化を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成する。

(2) 留意点

- ・教育課程に基づいた組織的・計画的な教育活動の実施により、知徳体のバランスのとれた育成を図り、学習の基盤となる資質・能力を身に付けさせるとともに、学びの質の向上に努める。特に、言語能力については1人1台端末の活用や話し合い活動を充実させる。
- ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力については、各教科、特別活動、総合的な学習の時間において、見方・考え方を働かせながら、人権教育、情報教育、国際理解教育、環境教育、主権者教育等の関連を適切に配置する。
- ・小中一貫教育の取組の下で、地域住民等と連携及び協力をしながら教育活動を行う。
- ・保護者や地域の声を、学校評価等を通して把握し、教育課程の改善に生かす。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・「つながる 優しさ 思いやり たくましさ」をスローガンに、学校目標の具体的な姿を諸活動における目標としながら、指導と評価の一体化を図った特色ある学校づくりを推進する。
- ・校務のデジタル化や業務改善による効率化や簡略化を進め、教職員が心身ともに健康な状態で職務に取り組めることができるよう教職員管理と組織管理に配慮する。
- ・「生きる力」を育む知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動の実施と教科等横断的な視点に立った資質・能力（学習の基盤・現代的な諸課題）の育成に向け、全職員が取り組むべき課題として共通認識し、課題の解決に組織的・計画的に取り組む。
- ・他者と関わり合いながら言語能力を身に付ける場面において、生徒の主体的な活動を促すとともに、認め励ます指導を充実させ、粘り強くたくましく成長する生徒の育成を目指す。
- ・「子ども基本法」の理解に基づいた一人一人を大切にする教育活動の充実を図る。
- ・「特別の教科 道徳」を柱に、自己肯定感や自己有用感、生命や人権を尊重する心を育む。
- ・不登校対策の充実と不登校生徒の自立に向けた対応に努めるとともに、いじめを生まない指導・支援の充実といじめをしない態度や能力の育成を図る。
- ・デジタル・シティズンシップの考え方を基に、生徒の情報収集・活用能力を育成し、学習や生活の場面において自分で考え、行動できる指導の充実を図る。

(2) 学習指導

- ・学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）の育成。
- ・指導と評価の一体化を目指した指導計画・評価計画の見直しと構築。
- ・「宇都宮モデル」（はっきり、じっくり、すっきり）の各過程の質的向上。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現と1人1台端末を活用した授業改善と効率化。
- ・課題の提示や展開の仕方などに、特別支援教育の視点を取り入れた指導の充実。
- ・特色ある学校づくりと関連した人権、環境、主権者、安全等の計画的な位置付けと指導。
- ・学力調査結果の分析に基づいた課題を組織的に解決するPDCAサイクルの確立。

(3) 児童生徒指導

- ・不登校対策といじめを生まない指導・支援の組織的な対応。
- ・規範意識の育成と基本的な生活習慣の確立。
- ・教育相談の充実と校内適応支援教室の適切な運営。
- ・SC, MS, 関係諸機関との連携による情報共有。
- ・デジタル・シティズンシップを基盤としたSNSトラブルの未然防止と対応。
- ・宮っ子心の教育の推進による自己肯定感のもてる学校づくり。(学年賞)

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- ・元気アップ教育に基づいた健康教育の充実と望ましい生活習慣の確立。
- ・元気っ子健康体力チェック、定期健康診断結果等の結果の有効活用。
- ・体力向上を目指した体育的活動の推進。(体力向上)
- ・デジタル活用時における健康面への配慮に関する教育。(保健教育)

- ・食事マナーの指導と「宇都宮学」と関連した食文化の学習の充実。(食に関する指導)
- ・安全教育の充実と危機予測・回避能力の育成。(安全教育)

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 生徒は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>・生徒, 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し, 教師が授業のねらいを明確にするとともに, 生徒がじっくり考え粘り強く学習に取り組む場を設ける。</p> <p>・生徒の情報収集・活用能力の育成を図るため, 各教科の授業の中で, グループ学習や生徒同士が対話を通した情報交換の場を積極的に設ける。</p> <p>・家庭学習の指導や AI 学習ドリルの活用などを通じて, 家庭学習の習慣化を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>・生徒の肯定的回答は 90.8%, 教職員の肯定的回答は 96.6%であり, どちらの指標においても数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・生徒一人一人が, 学習課題を解決するための情報収集および活用する能力を育成し, 粘り強く学習に取り組める環境をグループ学習や生徒同士の対話をする場面を設定する。</p>
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 生徒は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>・生徒, 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・日常の学校生活や多面的・多角的に考え, 議論する工夫した道徳の授業を通して, 自分なりの考えを伝え合い, 実践する力が身につくような指導を展開していく。</p> <p>・認め合える学級の雰囲気をつくり, 思いやりの心を育てる。</p> <p>・行事での振り返りや帰りの会等で思いやりのある行動をとった生徒等の事例を紹介, 称賛することで啓発していく。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>・生徒の肯定的回答は 92.3%, 教職員の肯定的回答は 100%であり, どちらの指標においても数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・道徳の授業の中で自分なりの考えを伝えあうことや行事の振り返りの活動等を通して, お互いを認め合える雰囲気を醸成する。</p>
	<p>A3 生徒は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>・生徒の肯定的回答 85%以上, 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・学級活動では, 自己の生き方を考えさせるとともに, 目標に向かって日々努力することや諦めずに粘り強く学習や運動に励み続けることの大切さを指導していく。</p> <p>・学校行事を通し, 自己実現可能な目標を見出させ, 目標に向かって粘り強く取り組む力を高める指導を展開し, 達成感を味わわせる。</p> <p>・目標に対する取り組み状況を振り返り, 粘り強く取り組んでいる生徒を称賛する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>・生徒の肯定的回答は 87.0%, 教職員の肯定的回答は 100%であり, どちらの指標においても数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・学習面・生活面ともに, 生徒一人一人の目標達成のために, あきらめずに粘り強く学習や運動に取り組むことができるように目標達成状況を教室に掲示し, 視覚化・明確化するなど, 指導を継続する。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での活動を通して、健康や安全についての意識を高め、交通安全教室や避難訓練、生活安全委員会で、実践力を高める。 ・定期的に保健委員会が衛生検査を実施し、健康面への配慮を促す。 ・定期的な登下校指導、安全点検等を通して安全に生活できる環境作りに努める。 ・毎日の昼の放送において、献立の栄養成分を確認することで、バランスよく食事をするように意識を高める活動を促す。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・健康や安全についての課題意識を高め、生活の改善行動につなげるために各委員会での活動を充実させる。</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動の場面（MBS、帰りの会の振り返り）で、日ごろのよい行いをしている生徒を認める活動を行う。 ・グループ活動を通して、お互いの意見を認め合う取組を支援する。 ・学校行事などの活動を通じて、協力して活動することの大切さを実感できるように支援する。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 89.8%、教職員の肯定的回答は 96.6%であり、どちらの指標においても数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・学級活動や学校行事等の活動を通じて、周囲と協力し、生活をよりよくする意識を高め、生徒が成長を実感できるように指導を行う。</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業に ALT を積極的に活用し、言語活動の充実を図る。 ・授業中ではもとより、給食時の会食の場においても ALT と英語でコミュニケーションをとるよう促していく。 ・授業でインタビューテストを行い、生徒が積極的に英語を用いて活動できる時間を増やしていく。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 74.6%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・生徒が英語を使い、コミュニケーション活動を多く行えるよう、授業内容を工夫すると共に、ALT を積極的に活用する場面を増やす。</p> <p style="text-align: center;">B</p>
	<p>A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間での「宇都宮学」で、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。 ○地域の行事への参加を促し、宇都宮の良さを知る機会を増やすとともに各種たよりやホームページを通じて保護者にも取組の様子を伝える。 ・献立に地産地消の食材や郷土食、宮っ子ランチを用い、給食時の献立の説明等で宇都宮の農産物への理解・関心を深めさせる。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.8%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間での宇都宮学を教育課程上で年度の早期に位置づけ、授業参観等で保護者に周知を図る。また、地域行事に参加することで、宇都宮や地域の良さを知る機会を増やすよう工夫する。</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 80%以上、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等において、ICT 機器(1人1台端末)を積極的に活用し、学習効果を高める。 ・情報教育や総合的な学習の時間における調べ学習等で、ICT 機器の基本的操作や有効に活用する技能、図書等を活用する力を育成する。 ・授業等を通して、アプリを活用するために必要な基礎的な知識や技能を身に付けさせる。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.1%となり、数値目標には達しなかったが、教職員の肯定的回答は 100%で数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・多くの授業で 1人1台端末や学校図書を使用することで、生徒が自発的に学習のツールとして活用できる環境を作るとともに、学校行事の事前に行う調べ学習などで、積極的に活用させる。</p> <p style="text-align: center;">B</p>

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 80%以上、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・生徒会活動を中心に「持続可能な社会」の実現に向かう具体的な取組を考えて実行に移したり、話題の提供や啓発に関わったりする機会を設ける。 ・各授業の中で、SDGs についての話し合い活動を意図的に取り入れ関心をもたせる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 76.8%、教職員の肯定的回答は 75.9%で、どちらも数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・生徒会活動を中心に「持続可能な社会」の実現のための取組を考える場面を増やし、SDGs とのつながりを意識する機会を増やす。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 90%</p>	<p>・特別な支援を必要とする生徒について、個々の実情に合った個別の支援計画を作成したり、ケース会議を実施したりし、年間を通して適切な支援ができるようにする。 ・校内支援委員会や教育相談委員会を定期的に開催し、情報交換を行う。 ・特別な支援を必要とする生徒については、関係機関や SC・MS の支援を積極的に取り入れる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.6%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・適切な支援を行うため、個別の支援計画の内容を充実させ、年間を通して有効に活用できるよう職員会議等で教職員の共通理解を図るとともに、校内支援委員会で見直しを行う。また、特別支援教育担当や SC による職員研修を実施し、特別な支援を必要とする生徒への理解を深める。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 95%、保護者の肯定的回答 80%</p>	<p>・学級担任は、いじめは絶対に許さない毅然とした姿勢で学級経営を行う。 ・生徒会が中心となって行う「いじめゼロ集会」を通して、「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識を持たせる指導を行い、いじめの未然防止に努める。 ・「いじめアンケート」では、いやな思いをしている生徒については迅速に対応し、早期解決に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.3%、教職員の肯定的回答は 96.6%、保護者の肯定的回答は 80.4%であり、すべての指標においても数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・人権に関する学校行事等の取組を通じて、教職員の共通理解を図り、学校全体でいじめを許さない指導を実践していく。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ・教職員、保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・生徒の話を丁寧に聞き、気になる生徒にはこまめに声掛けを行う。また、保護者との連携を欠かさないようにする。 ・教育相談委員会を通して SC や MS とともに情報を共有し、家庭や市教育センター等関係機関とも連携しながら指導していく。 ・校内適応支援教室の充実と、全職員による生徒への支援を行う。 ・帰りの会や清掃の反省会などで頑張っている生徒を称賛する活動を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.6%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 82.9%となり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・生徒一人一人の良さが生きような学級経営のために、WRBQU 検査の活用や定期的な教育相談等で生徒の状況を把握し、教育相談部委員会や家庭・各機関と連携を図って迅速に対応する。</p>

<p>3- (3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいきいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 90%以 上、保護者の肯定的回答 85% 以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営や教育相談を充実させ、生徒に寄り添った関係作りに努める。 ・生徒一人一人が安心して活躍できたり、必要とされていることを感じられたりする関係作りを図る。 ・生徒自身が問題解決に取り組む中で、WEBQUの活用や生徒の困り感への対応といった支援を行うことで、生徒の自己肯定感を高める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は 95.5%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 79.6%となり、数値目標には達しなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生徒の心に寄り添うことを意識して、学級経営や教育相談にあたる。 ・生徒の主体性を大切にしたい生徒会の運営を継続して進める。 ・学校・学年行事等で一人一人が活躍する場面を増やせるように努める。
<p>3- (4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいきいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 90%以 上、保護者の肯定的回答 85% 以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営や教育相談を充実させ、生徒に寄り添った関係作りに努める。 ・生徒一人一人が安心して活躍できたり、必要とされていることを感じられたりする関係作りを図る。 ・生徒自身が問題解決に取り組む中で、WEBQUの活用や生徒の困り感への対応といった支援を行うことで、生徒の自己肯定感を高める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は 95.5%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 79.6%となり、数値目標には達しなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生徒の心に寄り添うことを意識して、学級経営や教育相談にあたる。 ・生徒の主体性を大切にしたい生徒会の運営を継続して進める。 ・学校・学年行事等で一人一人が活躍する場面を増やせるように努める。
<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業 や生徒にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 ・生徒の肯定的回答 90%以 上、保護者の肯定的回答 85% 以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮モデルを基に、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を学習活動に適切に位置付け、「分かる・できる授業」づくりに努める。 ・「一人一授業」公開を実施し、教員の授業力向上を図る。 ・習熟度別学習やT・Tなど指導方法を工夫し、個に応じたきめ細かい指導を行い、基礎的基本的内容の定着に努める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は 95.0%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 79.2%となり、数値目標には達しなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修やミニ研究授業とその後のグループによる授業研究会の実施を通して職員の授業力向上に努める。 ・個に応じたきめ細やかな指導を習熟度別学習やT・Tを活用しながら行う。 ・ホームページや学校だよりを通して、学校で行っている職員の授業力向上への取組についての周知を図る。
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力作 り業務に取り組んでい る。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校長を中心とした「チーム学校」の考えのもと、ミドルリーダーを中心に、お互い協力し合いながら業務に取り組む職場環境を構築していく。 ・一人一人が「風通しの良い職場」を意識することで、情報の共有化を図るとともに協力しやすい雰囲気を作る。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書等と連携を強化して課題の解決に取り組む。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は 93.1%であり、数値目標には達しなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チーム学校」の考えのもと、様々な学校課題に組織的に対応するとともに、企画委員会や職員会議等で情報の共有化を図り、協力し合いながら業務に取り組むなど、教職員の協働意識の向上に努める。
<p>4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 80%以 上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職は教職員の出退勤時刻を把握し、時間外勤務の多い教職員に対して、個別に面談し、勤務時間の適正化を指導、助言していく。 ・みずほネットなど校務のデジタル化による業務の効率化、業務の精選、部活動方針の徹底など、教員の勤務時間の縮小に取り組む。 ・企画委員会や学年主任会、職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学校経営を行う。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は 96.6%であり、数値目標に達した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自でリフレッシュデーを月1回設け、職員室前方ホワイトボードに掲示するとともに、事務の簡略化と業務内容の精選に努める。

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ・保護者、教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○小中一貫教育推進主任を中心に、学校間の情報交換や交流・連携を推進するために、各部会の運営方針を明確にし、分科会活動の充実に努める。 ・学校ホームページや事務室前の掲示板に「地域学校園コーナー」を設置して情報を発信するなど、保護者・地域への啓発を行い、小中一貫教育への周知を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 79.3%となり、数値目標には達しなかったが、教職員の肯定的回答は 96.6%で数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・地域学校園だよりの発行し、小中一貫教育・地域学校園の取組を保護者にさくら連絡網で配布するとともに、学校ホームページにも掲載することで、保護者への啓発を図る。また、事務室前の掲示板に設置した地域学校園コーナーを充実させる。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ・保護者、地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○地域の蛍水会の協力を得ながら、ホタルの飼育を行っている。 ○食農体験学習では、地域の農家の協力を得ながら、田植えからお米の収穫までの活動を行っている。 ○社会体験学習を通して、地域の企業等と連携しながら、キャリア教育を進める。 ・各種たよりをさくら連絡網や保学校ホームページで、または保護者会等で情報発信し、保護者・地域との連携を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 84.1%で数値目標に達したが、地域住民の肯定的回答は 72.7%となり、数値目標には達しなかったが昨年度より、6.1%上昇した。 【次年度の方針】 ・地域協議会の活動、地域の行事等への生徒のボランティア参加、食農体験、ホタルの飼育など、瑞穂野地区の特色を生かした教育活動を、学校 HP や各種たよりに掲載することにより、活動内容の周知や活動への理解と協力を得ることに努める。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ・教職員、保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・安全点検を毎月確実にを行い、環境整備を心掛けるとともに、必要に応じた修繕をする。 ・教職員の危機管理意識を高めることで、危険な場所の早期発見と迅速な改善に努める。 ・整理整頓に努め、清掃が行き届いた校舎や体育館の維持、管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.6%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は 85.9%となり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・引き続き一人一人の教員が日頃から安全に対する意識を高め、安全点検を確実にを行い、修繕箇所や危険な場所を早期発見し、迅速な改善に努める。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 90%</p>	<p>・教師が、Google Classroom やスクールタクトを各教科で登録し、生徒が授業中や宿題などの課題学習を行えるようにする。 ・職員間での 1 人 1 台端末の使用に関する情報共有を学年会議や教科部会を通して、積極的に行う。 ・学校ホームページやさくら連絡網を活用して保護者や地域に積極的に情報を発信する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.9%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・職員間での 1 人 1 台端末に関する活用方法を学年会議や教科部会を利用しながら情報交換することで、職員一人一人がデジタルを活用できる機会を増やす。</p>

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等

<p>B 1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>○生徒があいさつしやすい環境をつくり、あいさつの大切さはもとより、あいさつの声が飛び交う明るい学校づくりの一員として行動させる。 ○生徒会執行部や生活安全委員があいさつ運動を行う。 ○授業前後のあいさつを丁寧に行う。 ○教師自ら、生徒に積極的にあいさつを行う。 ○来客者に対し、積極的にあいさつするように促す。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 97.5%、教職員の肯定的回答は 93.1%で、ともに数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・時と場に応じたあいさつができるように、状況に応じて指導する。生徒主体のあいさつ運動や、地域学校園のあいさつ運動を充実させる。</p>
<p>B 2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・生活安全委員を中心に身だしなみ点検を行うなど、生徒が主体的にきまりを守るように促していく。 ・生徒指導委員会で示された方向について教職員が共通理解を図り、同一歩調で指導を行い、きまりやマナーを守るように支援する。 ・誤った言動をした生徒を見過ごさず、指導を適切に行うことにより、規範意識を高めていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.5%、教職員の肯定的回答は 96.6%で、ともに数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・きまりやマナーについて、教職員間の共通理解を図り、同一歩調で指導に当たる。また、生徒会を中心とした取組を推進し、生徒自ら問題点や課題を見だし、改善していける主体的活動を支援する。</p>
<p>B 3 教職員は、言語能力の育成を図るために、言語活動の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 ・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>○教師が、話し合い・発表の場面において、生徒が考えを表現するための方法を事前に準備し、計画的に実施する。 ○教師が、振り返り活動において生徒が適切な言葉で表現したり、根拠をもって考えを述べたりできる環境を整える。 ○生徒が適切な言語活動を行っている時には称賛し評価をする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 93.1%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒一人一人が、話し合いや発表の場面、振り返り活動の中で根拠をもって考えを述べ、考えを表現できるよう授業をコーディネートする。</p>
<p>B 4 学校は、生徒が意見を表明する機会の確保に取り組んでいる。 【数値指標】 ・生徒、教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>○学級活動や学校行事等において生徒が話し合う機会を設け、生徒の意見を尊重しながら学級経営に取り組む。 ○生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自主的・自発的活動を促す。 ○学校生活のきまりの見直しや生活環境の改善について、生徒の意見を取り入れながら、学校生活の質の向上を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.8%となり、数値目標には達しなかったが、教職員の肯定的回答は 96.6%で数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒が意見を述べたり話し合う機会を意図的・計画的に設けたりして、より主体的に実践していく意欲を高める方策（実践方法・振り返り）を工夫する。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

〔数値指標に対する評価から〕

・宇 22 項目（A1～A20, B1, 2）において、調査した全対象者（生徒・教職員・保護者・地域住民）から回答を得た全 63 項目のうち、肯定的回答の割合が 80%を上回った項目は 50 項目（全体の 79.4%）であった。市の平均を上回っている項目（同率含む）が 35 項目（全体の 57.1%）であることから、本校の教育活動が全体的に肯定的に受け止められていると捉えられる。

〔経年変化による評価から〕

・A2 生徒への思いやりを持つ教職員の指導は生徒により沿った指導を行えているため、昨年度より 6.3%、A11 いじめが許されない行為である指導に関しては、保護者は 2.9%、地域住民は 17.2%、また、A18 家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実に関しても地域住民の評価で 6.1%上昇したことから、今年度の取り組みにおいて一定の評価を得ることができた。

・A9 持続可能な社会への関心については、社会的にも SDGs に関する取り組みの関心が高いため、より関心や理解を高めていく必要があると生徒、教職員とも感じているため、昨年度より評価が下降した。

○学校独自の取り組みにおいては、B1「時と場に応じたあいさつ」、B2「きまりやマナーを守る」において、目標数値指標を越えたものの昨年度より肯定的回答の割合が下がっていることから、取り組みの改善が望まれる。また、B3「言語能力の育成」、B4「生徒の主体的な活動の促進、学校生活の向上」においても、生徒・教職員は、目標数値指標を越えたものの昨年度より肯定的回答の割合が下がっている。しかし、保護者の肯定的回答は若干向上したことから、保護者会や学年だより、ホームページでの情報発信で理解が高まったと考えられる。

〔今年度の重点目標等の視点から〕

・「学習指導の充実」では、A1「生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる」、A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」の項目において、教職員、生徒とも市の平均より、肯定的回答が上回った。理由としては、本校や地域学校園の重点目標である学習の基盤となる態度や学習習慣の育成全教員 1 人 1 人が目標を設定し、授業公開及び授業研究会を実施し、授業力向上に努めた成果と言える。

・「生徒指導」では、A11「いじめを生まない指導」において、生徒、教職員、保護者ともに目標とした肯定的回答数値指標を上回った。理由としてはいじめアンケートを記名に変更したり、いじめゼロ集会や人権集会充実させたり、教育相談で丁寧な聞き取りを行い、早期発見、早期対応に努め成果と思われる。また、A12「不登校を生まない学級経営」においても教職員は目標とした肯定的回答数値指標を上回った。しかし、保護者においては、7.1%届かなかったことから、本校の取り組みについて情報発信したり、魅力ある学校づくりにより一層努めたりする必要がある。

・「健康管理」では、A4「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」の項目で、生徒、教職員、保護者とも肯定的回答が市の平均を上回った。年間をとして本校の重点項目である健康の保持増進を図るための健康相談や保健指導の充実として、各種健康診断後に継続して受診勧奨を行ってきたこと、さらに年 2 回「元気っ子生活習慣チェック」により、生徒に健康な体作りの意識を向上させた成果と思われる。また、安全管理の面でも年 2 回、地震、不審者対策の避難訓練や交通安全教室の実施により、安全に関する意識を高めるよう努めてきた。

・「学校運営」では、年間を通して「つながる 優しさ 思いやり たくましさ」のスローガンのもと、生徒、教職員のウエルビーイングのため教育活動を推進してきた。特に今年度新たに加えた「たくましさ」について A3「粘り強く取り組む生徒の育成」については教職員の評価は 100%であった。全職員が重点目標であることを意識し、各行事等で毎回目標を設定させ、廊下等に掲示し、意欲を高めたり、振り返りについても掲示したり指導を徹底したため、生徒の肯定的回答も市の平均を上回った。また、A16「業務の効率化」についても、昨年度より 2.8%上昇した。今後も校務のデジタル化等をより一層進めることで、さらなる向上を目指していきたい。

・「学校の特色ある教育活動」では、ESD に関する A9「持続可能な社会への関心」、A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実」についての生徒の肯定的回答において、市の平均を上回った。次年度は地域との連携で、「福祉」に関する内容を総合的な学習の時間に取り入れていきたい。

〔教職員分析から〕

・A6「生徒の英語を使っのコミュニケーション」については、英語科の指導において、ALT を積極的に活用する場を増やし、生徒が英語を使いコミュニケーション活動を多く行えるように授業内容を工夫していく。

・A11「いじめを生まない指導」において、保護者との連絡を細目にとる中で、生徒や保護者の状況を把握し、いじめの未然防止や早期発見につなげていく。

・A12「不登校を生まない学級経営」、A19「安全に配慮した環境づくり」において、本校の取り組みについて情報発信する必要があると考えられる。

・A13 において保護者の肯定的回答が下がっていたので、保護者へのプラスのAppointment（電話・学級通信・学年通信・ダイアリー・懇談）を増やしていく。

・A19「安全に配慮した環境づくり」については、安全点検や学校環境衛生検査等の結果を踏まえて、速やかに改修・修繕する必要があると考えられる。

○B1「生徒の時と場に応じたあいさつ」において、地域住民の方からの数値が下がっていることから、地域の方が来校することを事前に伝え、積極的なあいさつを心がけるように促す。

7 学校関係者評価

・ 全体的な評価は肯定的な回答が多く、概ね良好である。

○瑞穂野中の生徒は、地域行事、敬老会、地域の清掃活動、ボランティア活動に積極的に参加し、地域の大人や子供と交流を図るなど、自らの自主性・協調性、役割等を理解し、将来の大人像に向けてよく考えながら行動している。

・ A6「生徒の英語を使っのコミュニケーション」については、生徒同士は日本人であって、日本語で会話できるので、英語の必要性を感じないと思う。設問としては、「生徒は英語を使ってALTと積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。」程度が良いと思われる。

・ A8「生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」については、生徒と教職員の回答率に差があるのが課題だと感じた。デジタルが授業で積極的に活用されているか疑問に思うし、教育現場で果たして本当にデジタルが必要なのか検証が必要である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・ 全体アンケートでは、本校の教育活動や学校運営について肯定的に評価されていると捉えられるので、次年度も活動の見直しや工夫をしながら更なる充実を図っていききたい。

・ 今年度は「つながる 優しさ 思いやり たくましさ」のスローガンのもと認めて、褒めて励まし、生徒のよさを伸ばす教育活動を行ってきた。生徒一人一人を大切にす指導を継続していききたい。

○地域のボランティア活動などの体験活動を通して、生徒は地域に対する郷土愛を育てたり、心を豊かしたりしてきた。次年度は地域未来会議でSDGsの視点で「地域のためにできること」を考え、さらに多くの場面で地域に貢献し、自己有用感、自己肯定感を高める教育活動を展開していききたい。

○地域の方々に学校行事や土曜授業で参加していただく機会を増やし、学校と地域との連携を深めたり、各種ボランティア活動への生徒の主体的な参加を促したりして、生徒と地域の結びつきを深められるようにしていく。

・ いじめ対策については、全教職員一丸となり、共通理解、情報共有のものとじめ等の問題行動の未然防止や早期発見に努める。また、生徒会を中心とした「いじめゼロ集会」「人権集会」などの継続的な取組をさらに充実させ、今後も継続して取り組んでいききたい。いじめ対策について、保護者会、学年だよりなどを通じて周知・説明していく。

○小中連携の取組として、地域学校園で「みずほのあいさつ運動」を実施してきた。次年度も瑞穂野地区社会福祉協議会の方々と計画的にあいさつ運動を展開し、より一層の充実に努める。また、ホームページや校舎内の掲示板で小中一貫の取組の活動内容の理解を深めていく。